

岩手県立前沢高等学校部活動安全対策マニュアル

部活動の実施に当たっては、事故等を未然に防ぐために常に危機管理意識を高め、危険予測、安全確保に努めることが大切であるため、本校の「部活動安全対策マニュアル」に沿って活動を進めるものとする。※ 熱中症対策については本校の「熱中症予防安全対策マニュアル」に沿って活動する。

1 安全管理体制の構築

- (1) 学校の部活動に係わる活動方針
「学校の部活動に係わる活動方針」により、活動方針ならびに活動の決まりを確認する
- (2) 安全に関する知識・技能の習得
心肺蘇生法やAED、エピペン等の救急対応や熱中症予防に係る校内研修を実施する。

2 事故防止のための安全に配慮した適切な指導

- (1) 生徒の健康状態の把握
不慮の事故を避けるため、生徒の健康状態を把握したうえで、安全に配慮した適切な指導を行う。また、生徒の行動特性（注意力、把握力、運動能力等）や体質、既往症の経歴についても把握しておく。
- (2) 顧問不在時の対応
やむを得ず直接部活動の指導に立ち会えない場合は、他の顧問の教員と連携、協力し、あらかじめ顧問と生徒の間で約束された安全面に十分に配慮した内容や方法で活動すること。
- (3) 顧問不在時の練習内容の徹底
部顧問が部活動に立ち会うことができない場合（生徒だけの活動）は、危険性の低い内容とし、練習内容や練習方法、活動時間、安全管理を具体的に指示する。

3 日常の活動に潜む危険性の回避

- (1) 活動の工夫、ルールの明確化
日常的にグラウンドや体育館等の活動場所を複数の部活動が共用して練習する場合（※ 現在、共用する活動場所は無し）、関係する部活動の顧問、生徒間で禁止事項や活動に伴う約束事項等について、事前に共通理解を図る。
- (2) 「ヒヤリ」「ハット」事例の情報共有
部活動開始時には、安全管理等について確認し、部活動終了後には危険を感じたような出来事等（ヒヤリハット事例）について報告しあいながら、翌日等の部活動に生かすと共に、他の部活動とも情報共有する。

4 施設・設備・用具等の安全点検と安全管理指導

- (1) 部活動開始前の安全点検
部活動開始前には、必ず施設・設備・用具等の安全を目視で確認する。
- (2) 安全管理指導
施設・設備・用具等を安全に正しく使用するように指導する。

5 本校に設置する各運動部活動の予想される危険事例と予防策

(1) バドミントン

<p>予 想 さ れ る 危 険</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ポストの老朽化・ネジの緩みが原因で、ネットを張る際や片付ける際にネジ緩みストッパーが跳ね上がる。 • 床やコートマットの損傷がある。 • 床やコートマットに汗やゴミがある。 • 相手の打ったシャトルが眼に当たる。 • パートナーのラケットが眼や歯、顔等に当たる。 • 活動中にアキレス腱や足首・膝を損傷する。 • 気温が高い時に体育館を締めきって、長時間プレーを行うことによる熱中症。
<p>予 防 策</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 練習開始前や、収納時に点検をする。 • 練習開始時やインターバル中、又はラリーの間にその都度、汗を拭いたり、ゴミを拾う。 • 指導者による注意指導と各選手の技術向上、発生時にはアイシングの上、必要なら救急車対応を要請する。 • 暗幕で締めきった室内は、かなりの高温になる時があるので、定期的に換気し、こまめに水分補給を行うようアナウンスする。 • 応急処置用の水や氷を準備する。

(2) 卓球

<p>予 想 さ れ る 危 険</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 卓球台の移動時、車輪がうまく回らず転倒してしまう。 • 卓球台の設置時に、一人で開けてしまい、転倒してしまう。 • 卓球台の撤去時に、一人で持ち上げて、転倒してしまう、また、面を合わせる際に指を挟んでしまう。 • ラケットが汗などにより滑り、手から離れて飛んでいき、周りの人にラケットがぶつかる。 • 隣のコートでプレーしている人と衝突する。 • 試合中、無理な体勢から打球したり、無理なフットワークからけがをする。 • 気温が高い時に体育館を締めきって、長時間プレーを行うことによる熱中症。
<p>予 防 策</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 卓球台の移動は必ず複数で行い、特に段差がある場合はゆっくり操作する。 • 卓球台は重いので複数で操作し、開ける際は声をかけ合い、ゆっくり開ける。 • 卓球台を持ち上げる際に必ずストッパーを外し、複数で声をかけ合い、持ち上げる。 • ラケットのグリップが滑りやすくなっていないか点検させ、グリップをこまめにタオル等で拭くよう注意をする。 • 卓球台の間隔をできるだけ広くとり、プレーヤー同士の距離を保つ。 • ウォーミングアップ、ストレッチ、クーリングダウン等を徹底させる。 • 暗幕で締めきった室内は、かなりの高温になる時があるので、定期的に換気し、こまめに水分補給を行うようアナウンスする。 • 応急処置用の水や氷を準備する。

(3) ソフトテニス

予想される危険	<ul style="list-style-type: none">・ テニスコートの整備不足による衝突・転倒。・ コート整備用ローラーの巻き込み事故。・ ラケット・ボールが当たる。・ 選手同士が衝突。・ 炎天下における長時間のプレー。・ 荒天による落雷。
予防策	<ul style="list-style-type: none">・ ブラシやローラーでコートの凹凸をなくし、ラインテープを正しく貼る。・ ネット、審判台、ベンチを正しく設置する。・ ローラーの破損等を点検する。・ 周囲と適切な距離をとり、選手同士で声を掛け合う。・ 周囲の状況を確認し、コート内に入る。・ 水分補給や休息の時間をとり、涼しい部屋を確保する。・ 天気予報を確認し、天候状況を把握する。・ 待機場所・待機施設を確保する。

(4) 硬式野球

予想される危険	<ul style="list-style-type: none">・ 打者が打ったボールが投手の顔面に当たる事故。・ 打撃練習中に投手の前、あるいは左右においたネットの端に打球が当たり、方向が急に変わって顔面に当たる事故。・ ファールボールの処理や用具の片づけに注意がいき、打球が飛んでくることに気が付かず当たる事故。・ 打球の同時処理による衝突事故。・ イレギュラーバウンドによる事故。・ 炎天下における長時間のプレー。・ 荒天による落雷。
予防策	<ul style="list-style-type: none">・ 打者と適当な距離をとる、またネットをあまり近づけないよう距離を工夫する。・ 練習の中でどのような役割・動きをするのか十分に理解させる。・ 守備練習で送球する際や、打球を複数で追う際は十分に声かけをする。・ 一定程度の練習を行ったら常にグラウンドを整備する。・ 水分補給や休息の時間をとり、涼しい部屋を確保する。・ 天気予報を確認し、天候状況を把握する。・ 待機場所・待機施設を確保する。

6 ヒヤリハット事例

(1) バドミントン部： 学校の第一体育館でノック練習中に相手が打ったシャトルが左眼に当たり負傷した事例。

【対応】 練習を中止し、安静。受傷部位の確認。保護者に連絡。病院に搬送。

(2) バドミントン部： 学校の第一体育館でダブルスの試合形式の練習中にペアの味方が打ったシャトルが右眼に当たり負傷した事例。

【対応】 練習を中止し、安静。受傷部位の確認。保護者に連絡。保護者が病院に搬送。

(3) 硬式野球部： 学校の野球グラウンドで、ノック練習中に過呼吸症状の他、熱中症の症状（吐き気と手足のしびれ）が生じた事例。

【対応】 練習を中止し、日陰でアイシング処置。熱中症の症状が生じたため、救急車を要請。